

□ (評論) 採点基準 (合計≡50点)

問一 5点

□

問二 5点

ハ

問三 8点

X ≡ ハ Y ≡ ニ

問四 10点

(模範解答例)

A ○4点

B ○4点

雑多な素材がこれ以上の処理方法がないと思われる仕方では組織化される一方、作者の関心が局部に限定されることなく、総体を把握し、組織しているもの。 (70字)
C ○2点

各加点要素の加点の条件

A 「雑多な素材がこれ以上の処理方法がないと思われる仕方では組織化される」(4点)

△ 「雑多な」「組織化」の要素が書けている場合、▲2点減点で△2点。

B 「作者の関心が局部に限定される」となく」(4点)

△ 「局部に限定されることなく」を単に「局部でなく」のように「限定」の要素が書けている場合▲1点減点で△3点。

C 「総体を把握し、組織している」(2点)

△ 「把握」の要素が書けている場合、▲1点減点で△1点。

問5 6点

イ

問 6 10 点

(模範解答例)

A ○3点

B ○4点

絵具の抵抗を執拗に画面に塗りこんでゆくことによつて、
C ○3点

画面そのものに対する自分自身の抵抗にまでたか

め、自分の組織体の一部に変えようとする意図。(70字)

各加点要素の加点の条件

A 「絵具の抵抗を執拗に画面に塗りこんでゆくことによつて」(3点)

△「捨てては盛り上げるといふ行為の繰返しによつて」のみは△2点。

B 「画面そのものに対する自分自身の抵抗にまでたかめ」(4点)

C 「自分の組織体の一部に変えようとする意図」(3点)

▲末尾が「ため」「から」「ので」など不適切な場合は全体から▲1点減点。

問 7 6 点

ホ

問一 8点 (2点×4)

1 領分 2 惰性 3 依然 4 還元

問二 4点

(模範解答例)

A〇2点

B〇2点

社会的な複雑性を縮減し、 生活態度を単純化すること。 (25字) (4点)

各加点要素の加点の条件

A 「社会的な複雑性を縮減し」(2点)

※ 「社会的複雑性の縮減」について説明していないものは×0点。

B 「生活態度を単純化すること」(2点)

※ 「生活態度の単純化」について説明していないものは×0点。

○理由説明の結び「くから」「くため」になっている場合、「くする戦略」も、可○。

問三 12点

(模範解答例)

A〇3点

B〇3点

C〇3点

D〇3点

情報環境の中心が、 マスメディアではなく、 ネット利用のものに 変化してきている状況。 (40字)

各加点要素の加点の条件

※四〇字以内で答える設問。一九字以下のものは以下の加点要素があっても、全体不可×0点。

A 「情報環境の中心が」(3点)

※ 「異変が起きている」のが「情報環境」であることを説明していないものは×0点。

↓「情報環境の変化により」など、前提として「情報環境の変化」があるようなものは不可。×0点。

B 「マスメディアではなく」(3点)

※ 「異変(＝変化)」のかつての状況として「マスメディアが中心であったこと」を説明していないものは×0点。

○「くではなく」のニュアンスはBに入っていないなくても、B以外の要素を確認したうえで、そのようなニュアンスになっていればよい。

△「新聞やテレビ」のように、具体例の場合は、▲2点減点で△1点。

C 「ネット利用のものに」(3点)

※ 「異変(＝変化)」の近年の状況として「ネットが中心になっていること」を説明していないものは✕0点。

△ 「携帯電話」などの具体例が入っているものは▲2点減点で△1点。

D 「変化してきている状況」(3点)

※ 単に「変化した」とせず、「徐々に」の意味合いを明確にして「変化してきている」としていないものは✕0点。

問四 4点

ハ

問五 7点

ニ・ハ (完答)

問六 15点

(模範解答例)

A ○3点

懐疑的であることと、メディアの影響を発見し、

B ○3点

その中からメディアの問題点を指摘し、

C ○3点

代案の提案を積み重ねることと、

D ○3点

メディアも改善されるという

E ○3点

よい循環が生まれるから。 (80字) (15点)

各加点要素の加点の条件

※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

※**八〇字以内で答える設問。三九字以下のものは以下の加点要素があっても、全体不可✕0点。**

A 「懐疑的であることと、メディアの影響を発見し」(3点)

※ 「メディア・リテラシーによる批判的態度」によって、「メディアの影響を発見する」ことを説明していないものは✕0点。

B 「その中からメディアの問題点を指摘し」(3点)

※ 「メディア・リテラシーによる批判的態度」によって、「メディアの問題点を指摘する」ことを説明していないものは ✖ 0点。

C 「代案の提案を積み重ねること」(3点)

※ 「メディア・リテラシーによる批判的態度」によって、「代案を考える」ことを説明していないものは ✖ 0点。

D 「メディアも改善されるという」(3点)

※ 要素A・B・Cによつて、メディア側が「改善される」ことを説明していないものは ✖ 0点。

E 「よい循環が生まれるから」(3点)

※ 要素A・B・Cによつて、要素Dになり、それが「よい循環である」ことを説明していないものは ✖ 0点。

㊦ (古文) 採点基準 (合計50点)

問一 1点×3＝3点

甲 い 乙 は 丙 ふ

「ポイント」

※いずれも正解以外は×。
※1字指定。

甲 ×不正解 例 る・で・いで 等。
乙 ×不正解例 はし・わ 等
丙 ×不正解例 よ・ふる・こ 等

問二 (1点+1点)×3＝6点

X 断定・連用形

Y 存続・連体形 ※「完了」でも○。

Z 自発・已然形

「ポイント」

※字数指定はないが、正解の通りでないとき×。
※活用形に「形」がない場合は、活用形は×。
※仮名で書かれている場合、仮名が交じっている場合は×。
○句読点不要(不問)。

問三 3点×3＝9点

甲 イ 乙 ホ 丙 ハ

「ポイント」

※記号のみ(各1字)。
※記号を重複して答えている場合は、正解しているものも含め、いずれも不正解とする。
○句読点不要(不問)。

A 3点

(解答例)

A〇2点

B〇1点

物思いに耽るのに 堪えられなくて、

「ポイント」

A 「物思いに耽るのに」(2点)

※ 「ながめ」の現代語訳

○ 「物思いに耽る・物思いに沈む・物思いする」等の意があればよい。

B 「堪えられなくて、」(1点)

※ 「ながめ」の現代語訳

○ 要素Aの行為をするのが「つらくて・嘆かわしくて・飽きて・くしていられなくて・我慢しきれず」等の意があればよい。

✖ 「物思いにふけりつらくて」「のように**要素Aの行為と平行して**」「**ひびひ**」「**となっ**て**いる**場合は」✖。

D 3点

(解答例)

A〇1点

B〇1点

C〇1点

そつと 簾の隙間から 見ると、

「ポイント」

A 「そつと」(1点)

※ 「やをら」の現代語訳

○ 「静かに・おもむろに・そろそろと・ゆっくり」でもよい。

✖ 「だんだん・徐々に・次第に・少しずつ」、「不意に・突然」、「やおら」のままは✖。

B 「簾の隙間から」(1点)

※ 「簾のひまより」の現代語訳

○ 「隙間」は「透き間・間」等でもよい。

C 「見ると」(1点)

※ 「見るに」の現代語訳

✖ 「と」が「のに・ので」等、別の表現になっている場合は✖。

B (6点)

(解答例)

A〇3点

B〇3点

日本では心ひかれる音とも思っていなかった笛の音が、
中国で聞くとまたとないほどに趣深く聞
える、ということ。 (6点)

「ポイント」

A 「日本では心ひかれる音とも思っていなかった笛の音が、」(3点)

○ 「日本では心ひかれなかった笛の音が」の意があればよい。

○ 「心ひかれない」は「親しみが持てない・素晴らしく思えない・慕わしくない」等でもよい。

▲ 「なつかしくない」は▲2点減点。

✖ 「音」が「声」となっている場合は✖。

○ 「日本では」は「自国では・我が国では・自分の国では」でもよし〇とする。

▲ ない場合は▲1点減点。

○ 「笛」は「箏・箏・笛・縦笛・簫・楽器」でもよい〇。

▲ ない場合は▲1点減点。

B 「中国で聞くとまたとないほどに趣深く聞ける、ということ。」(3点)

○ 「場所がらか」の有無は不問。

○ 「中国ではまたとないほどに趣深い」の意があればよい。

○ 「中国」は「唐」でもよい。

✖ 「こ」は✖。

▲ 「中国では」がない場合はマイナス1点。

✖ 「またとないほどに」も「趣深く」もない場合は✖。

○ 「またとないほどに」は「比べる物がないほどに」等でもよい〇。

▲ 「趣深く」はあるが、これがない場合は▲1点減点。

○ 「趣深く」は「素晴らしく・美しく・良く」等でもよい。

▲ 「またとないほどに」はあるが、これがない場合は▲1点減点。

C (4点)

(解答例)

A〇2点

先帝の喪に服す期間であるので、

B〇2点

管弦の音を立てることを控えている、ということ。 (4点)

「ポイント」

※各要素単独採点。

A 「先帝の喪に服す期間であるので、」(2点)

- 「先帝の服喪で」の意があればよい。
- 「先帝」は「亡くなった帝・帝」でもよい。

▲これがない場合は▲1点減点。

- 「喪に服す」は「服喪・喪中・死者を偲ぶ」などでもよい。

B 「管弦の音を立てることを控えている」ということ。(2点)

- 「管弦」は「楽器」でもよい。

✖ 「糸竹」のままは✖。

- △ 「管弦・楽器」の意はあるが、「音」の意がない場合は△1点。

- △ 「管弦・楽器」の意がなく、「音」の意がある場合は△1点。

- 「控える」は「慎む・自粛する・やめる・止める」等でもよい。

問六 7点×2＝14点

E

(解答例)

A ○2点

B ○1点

C ○1点

D ○1点

言いようもないほどにかぐわしい

梅の香りに

少将は

その場から出て行くという

E ○2点

気持ちもしないので (7点)

「ポイント」

A 「言いようもないほどにかぐわしい」(2点)

- △ 「言いようもないほどの」の意があれば△1点。

- 「言いようもないほどの」は「表現の方法がないほど・何とも言えない・名状しがたい」等でもよい。

- △ 「かぐわしい」の意があれば△1点。

- 「かぐわしい」は「良い・素晴らしい・魅力的な」等でもよい。

B 「梅の香りに」(1点)

- ✖ 「梅」や「香り」がない場合は✖。

- 「梅」は「梅の花」でもよく、「香り」は「匂い・美しさ」でもよい。

C 「少将は」(1点)

※位置は解答のどこにあってもよい。

D 「その場から出て行くという」(1点)

- 「その場から」の有無は不問。

- 「出て行く」は「立ち去る・去る・出る・退出する・出発する」等でもよい。

- ✖ 「立つ・立っている」等は✖。

E 「気持ちもしないので」(2点)

- △ 「気持ちもしない」の意があれば△1点。

- 「気持ち」は「気・気分・心地」等でもよい。
- 右の【1点】があり、文末が「ので・から・ため」になっていれば○2点。

F

(解答例)

A○2点

B○2点

C○1点

D○2点

笛の音を尋ね、月の光に誘われてここへ来た旨を、少将は言づけけれど、女は返事をする~~こと~~もない。
(7点)

- 「笛の音を尋ね、月の光に誘われてここへ来た」の箇所「」が付けられていてもよい。

「ポイント」

A 「笛の音を尋ね、」(2点)

- ✖ 「音」の意がない場合、「音」が「声」となっている場合は✖。
- 「尋ね」は「探し・求め・訪ね」の方へ行き・の方へ来て」等でもよい。
▲ ない場合は▲1点減点。
- ▲ 「笛」の意がない場合は▲1点減点。
- 「笛」は「簫・箏・筆箒・縦笛・楽器」でもよし○とする。

B 「月の光に誘われてここへ来た旨を」(2点)

- 「月に誘われて来た旨を・月の誘いで来た」と・月に導かれて来たことを」の意があれば○2点。
- 「旨を」は「ことを」と・理由を」等でもよい。
- △ 「来た」の意がない場合は△1点。「来た」の対象を表す「女のもとへ」の有無は不問。

C 「少将は言づけけれど」(1点)

- ✖ 「少将は」の意がない場合は✖。
- 「少将は」のある位置はどこでもよい。

D 「女は返事することもない。」(2点)

- △ 「女は」の意がない場合は△1点。
- 「女は」のある位置はどこでもよい。
- 少将が「言った」相手として「女に」と書かれていてもよい。
- ▲ 「女は」は「誰も」では不可。よって、▲1点減点。
- 「返事をする」は「返答をする・答える・応える」でもよい。

問七 1点×2＝2点

四 漢文 50点

問一 2点×4＝8点

- a みづから (みずから) b いへども (いへども)
c たまたま d かつて

「採点のポイント」

*歴史的仮名遣いと現代仮名遣いが混ざっている場合は、どちらかに統一すること。

※送り仮名の不足は×0点。

例 a × 「みづか」「みづ」など。

b × 「いへど」「いへども」など。

c × 「かつ」。

問二 4点×2＝8点

(解答例) X 人柄 Y ひどく怒って

「採点のポイント」

X ○ 「性格」「性質」「性向」「気質」「生れつき」なども可○。

Y

○ 「ひどく憤って」「ひどくくやしがつて」「無念に思う」「歯ざしりをして」など可○。

○ 「ひどく」がなくとも可○。

○ 「怒る」「憤慨する」など言い切りで答えても可○。

問三 5点

(解答) 使三十二_ニ 県持_レ 疏_ニ 斂_一 之民_一

「採点のポイント」

○ 完答のみ5点

△送り仮名も施しているものは、送り仮名も正確な場合のみ2点を与える。

「使_{メントスルモ} 三十二_{ヲシテ} 県持_レ 疏_ヲ 斂_メ 之_ヲ 民_{ヨリ}」

B

A○2点

B○2点

(解答例)

咎め立て

しようとはしなかった。

「採点のポイント」

- 「わざわざ問い詰めることはしなかった」など可。
- A 「咎める」は「問い詰める」「詰問する」「罰する」なども可○。
- B 「すすんでくすることはしない」「決してくしない」としていても可○とする。
- △ B 「敢えて」を訳さずそのまま「敢えて(あえて)」としてもものは△1点。
- × B 「敢へて」のニュアンスがなく、単に「莫し」だけ訳した、「なかった」のみはB加点点ナシ。

C

A○2点

B○2点

(解答例)

すぐれた長官がいるのを

知っていたか。

「採点のポイント」

- × 疑問文でないものは不可×。
- A 「すぐれた」は「優秀な」「秀でた」「有能な」などで○。
- A 「長官」は「県令」「官吏」「役人」も可○。
- B 「知っているのか、いないのか」としても可○。
- B 「知らないか」も可○。

問五 3点×2＝6点

(解答)

D 内臣(使者)

E 黄琮(琮)

「採点のポイント」

- D (3点)
- 「内臣」または「使者」。
- × 「臣」は不可×。
- × 「廉訪」「県令」も不可。

E (3点)

- 「黄琮」または「琮」。
- ※玉(王) 偏と「宗」を「宋」にする誤字に注意してください。
- △ 「黄」は1点。
- × 「県令」は不可×。(「黄琮」と特定できない。)

A○3点

B○3点

(解答例) 立派な人物には 良い報いがある ということ。 (20字)

「採点のポイント」

▲A「立派な」は「善(良)い」「正しい行いをする」「すぐれた」なども可○。

○「良い報い」は「果報」など可○。

○句点はなくとも可。

A○3点

B○2点

(解答例) 賄賂を贈らずに内臣に悪口を言われた黄琮だが、

内臣が徽宗に優秀な人物を問われたときに、

C○2点

黄琮の名しか思い出せず褒めちぎったことにより、

D○2点

出世することができたこと。 (78字)

「採点のポイント」

A「賄賂を贈らずに内臣に悪口を言われた黄琮だが、」(3点)

※「禍」の部分の説明

△「賄賂を贈らずに」が無く、ただ「悪口を言われた」「嫌われた」などは△2点。

○「賄賂を贈らずに」が無くても、「黄琮が清廉／厳格な人物であったため」という内容があれば○。

B「内臣が徽宗に優秀な人物を問われたときに、」(2点)

※「徽宗」が「優秀な人物、県令」を尋ねた点

△ただ「尋ねられた」だけでは△1点。

C「黄琮の名しか思い出せず褒めちぎったことにより、」(2点)

※「黄琮の名しか思い出せず」「(黄琮を)褒めた」に各1点。

○「福」の具体化。「出世した」「高く評価された」「知事補佐に抜擢された」など。

